



2026年4月28日

各位

会社名 株式会社デンソー  
代表者名 取締役社長 林 新之助  
(コード番号 6902 東証プライム・名証プレミア)  
問合せ先 経理部長 荒井 是  
(TEL. 0566 - 25 - 5511)

### 自己株式の取得及び自己株式の公開買付けに関するお知らせ

当社は、2025年6月3日付で、会社法（平成17年法律第86号。その後の改正を含みます。以下「会社法」といいます。）第370条及び当社定款の規定に基づく取締役会の決議に代わる書面（電磁的記録を含みます。以下同じです。）決議により、同法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項及び当社定款の規定に基づき、自己株式の取得及びその具体的な取得方法として自己株式の公開買付け（以下「本公開買付け」といいます。）を行う予定であることを決議しておりました。

また、2026年1月14日付で、会社法第370条及び当社定款の規定に基づく取締役会の決議に代わる書面決議により、本公開買付けにおける買付けの条件等を変更することを決議し、その旨を公表しておりました。

その後、当社は、トヨタアセット準備株式会社（以下「豊田自動織機買付者」といいます。）が2026年3月24日に公表した「株式会社豊田自動織機（証券コード：6201）の株券等に対する公開買付けの結果に関するお知らせ」によって、豊田自動織機買付者による株式会社豊田自動織機（以下「豊田自動織機」といいます。）の株券等に対する公開買付け（以下「豊田自動織機公開買付け」といいます。）が2026年3月23日をもって終了し、2026年3月30日が豊田自動織機公開買付けの決済の開始日となることを確認いたしました。

以上を踏まえ、当社は、本日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項及び当社定款の規定に基づく自己株式の取得及びその具体的な取得方法として自己株式の公開買付けを行うことを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 買付け等の目的

（当社の株主還元方針）

当社は、2026年3月31日付で公表した2026年度から2030年度の5年間を対象とする中期経営計画「CORE2030」（以下「CORE2030」といいます。）のもと、社会価値の最大化と資本効率の最大化を両輪として、2021年度に刷新した財務戦略に基づき、資本コストを意識した経営を行い、自己資本当期純利益率（以下「ROE」といいます。）を最大化し、企業価値の創造に取り組んでおります。財務戦略では、①収益体質の強化、②低収益資産の圧縮、③資本構成の改善、④市場との対話を4つの柱としております。これらの財務戦略に基づき、戦略投資における借入の活用や安定性と機動性を両立した株主還元の強化を通じ、効率性と安全性のバランスがとれた資本構成へ改善することを目指しております。

当社は、株主への一層の還元と資本効率の向上のため及び経営環境の変化等に対して機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己株式を取得できる旨を定款に定めており、また、剰余金の配当等の会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議により定めることができる旨を定款に定めております。

自己株式の取得については、資本コストを意識した株主還元及び資本構成の改善を図ることを目的として、自己資本比率が60%を超過しないように是正を図りながら、理論株価との比較を通じ機動的に実施することを基本方針としております。また、配当については、連結業績、資本効率、配当額を総合的に勘案しながら、株主資本配当率（以下「DOE」といいます。）3.0%からの継続的向上を基本方針としております。当該方針に基づき、2026年3月期は中間配当金として1株当たり32円を実施、期末配当金としては、当社が本日公表した「剰余金の配当に関するお知らせ」に記載のとおり、1株当たり35円の配当を予定しており、これにより年間配当額は1株当たり67円の予定となり、DOEは3.5%となります。なお、CORE2030においては、引き続き自己株式の取得を機動的に実施する他、DOEを2030年時点で4.0%以上に長期安定的に向上させることを目標として掲げております。CORE2030の内容については、2026年3月31日に公表した「中期経営計画「CORE 2030」の策定に関するお知らせ」をご参照ください。また、当社は2026年3月期までの過去10年間において、資本効率の向上及び株主の皆様への利益還元を図るため、下表のとおり、自己株式を取得して

決議日	累計取得期間	累計取得株式数 (注1)	累計取得価額の総額
2016年7月29日開催 取締役会	① 2016年8月4日～ 2016年9月9日 ② 2016年10月3日～ 2016年11月30日	6,952,600株 (27,810,400株)	29,999,799,500円
2017年4月28日開催 取締役会	2017年5月1日～ 2017年5月31日(注2)	6,123,762株 (24,495,048株)	26,460,775,602円
2018年10月31日開催 取締役会(注3)	2018年11月1日～ 2019年3月13日	5,999,910株 (23,999,640株)	28,435,025,580円
2021年7月30日開催 取締役会	2021年8月2日～ 2022年1月25日	12,000,000株 (48,000,000株)	97,511,907,600円
2022年7月29日開催 取締役会(注4)	2022年8月1日～ 2022年12月16日	14,518,437株 (58,073,748株)	99,999,449,991円
2023年11月29日開催 取締役会	2023年12月21日～ 2024年2月27日	84,606,900株	199,999,828,050円
2024年10月31日開催 取締役会	2024年11月1日～ 2025年10月27日	221,716,900株	449,999,924,450円

(注1) 当社は、2023年10月1日を効力発生日として、当社の普通株式（以下「当社普通株式」といいます。）1株につき4株の割合で株式の分割（以下「2023年株式分割」といいます。）を実施しております。上表の括弧内の数値は、当該分割の効果を反映した数値です。

(注2) 具体的な取得方法が自己株式の公開買付けであるため、公開買付けにおける買付け等の期間を記載していません。

(注3) 2018年10月31日に公表した自己株式の公開買付け（買付け等の期間：2018年11月1日～2018年11月29日、取得株式数：3,282,510株（2023年株式分割の効果を反映した数値：13,130,040株）、取得価額の総額：15,585,357,480円）を含みます。

(注4) 2022年7月29日に公表した自己株式の公開買付け（買付け等の期間：2022年8月1日～2022年8月29日、取得株式数：9,025,337株（2023年株式分割の効果を反映した数値：36,101,348株）、取得価額の総額：59,955,313,691円）を含みます。

上表のとおり、当社は2023年3月期は約1,000億円、2024年3月期は約2,000億円、2025年3月期は約2,000億円、及び2026年3月期は約2,500億円の自己株式の取得を実施しました。2027年3月期は、本公開買付けを行うことにより、更なる資本構成の大幅な改善を実現します。

一方、昨今金融機関を中心に政策保有株式縮減の取り組みが加速しており、当社においても、株主である一部金融機関より売却の意向がある旨を伺っております。こうした金融機関の動向を踏まえ、当社は、上記

自己株式の取得方針に加え、今後の当社普通株式に係る市場需給への懸念にも対応すべく、当社が2024年10月31日に公表した「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」に記載のとおり、特定の大株主による大規模な当社普通株式の売却意向を確認した場合には、追加で自己株式取得を実施することにより売却へ対応することも検討しておりました。

(本件の経緯)

かかる状況の下、当社は、2025年3月3日、トヨタ不動産株式会社（以下「トヨタ不動産」といいます。）より、豊田自動織機の普通株式を非公開化するための一連の完了を条件として豊田自動織機によって実施されるトヨタ自動車株式会社（以下「トヨタ自動車」といいます。）が所有する豊田自動織機の普通株式の自己株式取得の資金に充当するため、また、トヨタグループ（必ずしも親子会社・関連会社又は共同支配企業の関係にあるものではありませんが、トヨタ不動産、トヨタ自動車、トヨタグループ3社（豊田通商株式会社、株式会社アイシン及び当社）ら合計18社（2025年3月31日現在）により構成されます。以下同じです。）各社が相互に所有する株式を売却することによって得られた資金をトヨタグループ各社において有効活用するため、トヨタ不動産が設立する株式会社（その後、2025年6月9日にトヨタアセット株式会社として設立されました。以下「豊田自動織機買付者親会社」といいます。）がその発行済株式をすべて所有する株式会社（その後、2025年6月9日にトヨタアセット準備株式会社として設立されました。）による豊田自動織機公開買付けが成立し、その決済が完了することを前提として、豊田自動織機がその所有する当社普通株式を当社に売却することを、豊田自動織機に要請することを検討している旨の意向が示されました。トヨタ不動産からの連絡を受けて、当社は、一定数以上の数量の株式が市場に放出された場合の当社普通株式の流動性及び市場株価に与える影響を踏まえ、応募対象株式（以下に定義します。以下同じです。）を自己株式として取得するか否か及びその取得方法についての検討を2025年3月下旬にかけて行いました。

その結果、当社が応募対象株式を自己株式として取得することは、当社の1株当たり当期純利益（以下「EPS」といいます。）やROE等の資本効率の向上に寄与し、株主の皆様に対する利益還元につながるという結論に至りました。自己株式の具体的な取得方法に関しては、株主間の平等性、取引の透明性及び市場における取引状況も踏まえて、十分に検討を重ねました。その結果、2025年3月下旬に、公開買付けの方法であれば、豊田自動織機以外の株主にも一定の検討期間を提供した上で市場価格の動向を踏まえて自己株式取得に応じるか否かを判断する機会を付与できる点、法令等に従った公開買付けの手続により買い付けることで、取引の透明性も担保できる点、市場外の取引であり当社普通株式の市場における流動性に比較的影響を及ぼしにくい点、市場買付けや立会外取引を利用した自己株式の取得の方法では、制度上、買付価格は市場価格とする必要があり、市場価格から一定のディスカウントを行った価格での買付けを実現することはできず、公開買付けの方法より優位な選択肢とはならない点から、公開買付けの方法により応募対象株式を取得することが適切であるとの考えに至りました。

このような中、当社は、2025年4月10日、トヨタ不動産より、①豊田自動織機公開買付けが成立し、その決済が完了することを前提として、当社が公開買付けの方法により豊田自動織機が所有する当社普通株式を取得すること、②本公開買付けにおける買付予定数は豊田自動織機が所有する当社普通株式の全部（157,705,656株、所有割合（注5）：5.86%）及び退職給付信託の信託財産として三井住友信託銀行株式会社（再信託先：株式会社日本カストディ銀行）に信託している当社普通株式の全部（27,192,000株、所有割合：1.01%）の合計数である184,897,656株（所有割合：6.87%。以下、これらを総称して「応募対象株式」といいます。）とすること、③本公開買付けにおける買付け等の価格（以下「本公開買付価格」といいます。）は、本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議の日の前営業日（行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号。その後の改正を含みます。）第1条第1項各号に掲げる日を除いた日）をいいます。以下同じです。）の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値又は同日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値のいずれか低い方の価格に対して一定のディスカウントを行った金額とすること、④但し、当該金額が一定の金額を上回る場合はその金額（以下「本公開買付上限価格」といいます。）を本公開買付価格とすること、について提案を受けました。また、当社は、2025年4月26日、トヨタ不動産より、①本公開買付価格は、本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議の日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式終値又は同日までの過去

1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値のいずれか低い方の価格に対して10%のディスカウントを行った金額とすること、②但し、当該金額が本公開買付けの実施予定に係る取締役会決議日の前営業日である2025年6月2日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値を上回る場合はその金額を本公開買付価格とすること、について提案を受けました。

(注5) 「所有割合」とは、(i)当社が本日公表した「2026年3月期 決算短信〔IFRS〕(連結)」(以下「2026年3月期決算短信」といいます。)に記載された2026年3月31日現在の発行済株式総数(2,910,979,691株)から、(ii)同日現在当社が所有する自己株式数(218,934,287株)を控除した株式数(2,692,045,404株)に対する割合(小数点以下第三位を四捨五入。以下、所有割合の計算において同じとします。)をいいます。

当社は、本公開買付価格の決定に際しては、基準の明確性及び客観性を重視する観点から、当社普通株式の市場価格を基礎とすること、本公開買付けに応募せず当社普通株式を所有し続ける株主の皆様を尊重する観点から、資産の社外流出を可能な限り抑えるべく、市場価格に一定のディスカウントを行った価格とすることが望ましいと考えました。具体的なディスカウント率については、客観性・合理性のある水準とすべく、近時の一定数の類似案件におけるディスカウント率の設定状況を把握するため、2022年5月から2025年4月までに決済が完了した自己株式の公開買付けの事例(以下「参考事例」といいます。)77件のうち、プレミアムを設定した事例又は株式価値算定書を用いて公開買付価格を決定した事例(合計11件)を除く事例66件(ディスカウント率5%(参考事例におけるディスカウント率の計算においては、小数点以下第一位を四捨五入しております。))以上10%未満が3件、ディスカウント率10%が52件、ディスカウント率11%以上が11件ありました。)において、ディスカウント率10%が最多であったことを参考に、ディスカウント率10%が一般的かつ合理的な水準と考え、本公開買付けにおけるディスカウント率を10%とすることが適切であると判断いたしました。また、本公開買付けの実施予定に係る取締役会決議日から本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議日まで約7ヶ月の期間が経過することが想定され、その間の株価の変動可能性を踏まえると、当社普通株式の市場株価が大幅に上昇することにより、不測の資産の社外流出が発生する可能性も考えられるため、当社は、本公開買付上限価格を設定することは当社にとって望ましいと判断いたしました。これらの検討を踏まえ、当社は、2025年5月8日、トヨタ不動産に対して、2025年4月10日及び2025年4月26日の提案のとおり、本公開買付けを行う旨を回答いたしました。

以上の検討及び協議を踏まえ、当社は、2025年6月3日付で、会社法第370条及び当社定款に基づく取締役会決議に代わる書面決議により、同法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項及び当社定款の規定に基づき、自己株式の取得を行う予定であること、その具体的な取得方法として本公開買付けを行う予定であること、及び本公開買付価格は本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議の日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値又は同日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値のいずれか低い方の価格に対して10%のディスカウントを行った金額(小数点以下四捨五入。但し、当該金額が本公開買付けの実施予定に係る取締役会決議日の前営業日である2025年6月2日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値1,935円を上回る場合には1,935円)とし、本公開買付けの開始を公表する日に改めて決定すること、加えて、本公開買付けにおける買付予定数については、自己資金の流出を最小限に抑える必要があることから、トヨタ不動産から提案を受けた応募対象株式と同数である184,897,656株(所有割合:6.87%)を買付予定数とし、買付予定数を超えた応募があり、あん分比例により単元調整した結果、買付予定数を上回る可能性があることから、買付予定数に1単元(100株)を加算した184,897,756株(所有割合:6.87%)を上限とすることを決議し、同日その旨を公表いたしました。

その後、2025年12月18日に、当社はトヨタ不動産より、2025年6月3日以降、当社普通株式の市場株価が上昇しており、本公開買付上限価格(1,935円)との乖離が大きい状態になっていることを踏まえ、本公開買付上限価格を豊田自動織機公開買付けの開始を公表する日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値に変更することを検討いただきたいとの要請を受けました。これを受けて、2025年12月24日、当社はトヨタ不動産に対し、足元の当社普通株式の市場株価を踏まえると、本公開買付上限価格の変更による豊田自動織機の普通株式の非公開化成立への貢献は限定的と想定され、株主の皆様への合理的な説明が困難であるため、要請を応諾しかねる旨を回答いたしました。これに対して、2025年12月26

日に、当社はトヨタ不動産より、豊田自動織機が所有する当社普通株式の売却にあたっては、時価を基準として可能な限り有利な方法により売却することが必要であると考えており、現時点において本公開買付上限価格（1,935円）で売却する意向は有していないため、本公開買付上限価格の変更を再度検討いただきたい旨の伝達を受けました。これを受けて、2026年1月6日、当社はトヨタ不動産に対し、当社普通株式を市場で売却する場合の売却期間やディスカウント率、みなし配当の益金不算入規定の適用等を踏まえると豊田自動織機にとっては本公開買付けが最も経済合理的な選択と考えられると伝えました。これに対して、同日に、当社はトヨタ不動産より、豊田自動織機との間で豊田自動織機公開買付けにおける買付け等の価格（以下「豊田自動織機公開買付価格」といいます。）の引き上げについて協議を行っている旨及び本公開買付上限価格を豊田自動織機公開買付けの開始を公表する日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値に変更することを改めて検討いただきたい旨の要請を受けました。これを受けて、本公開買付上限価格を変更することは2025年6月3日時点の想定よりも資産の社外流出が増加する可能性があるものの、①本公開買付上限価格を変更せずに、応募対象株式が、市場売却等の公開買付けによらない方法で売却された場合の当社普通株式の市場株価及び流動性への影響、②本公開買付けは足元の市場価格に対してディスカウントを行った価格で応募対象株式を自己株式として取得することができる機会であること、③応募対象株式を自己株式として取得することは、当社のEPSやROE等の資本効率の向上に寄与し、株主の皆様に対する利益還元につながると思われること、④豊田自動織機公開買付価格について合理的な引き上げが想定されること等を総合的に勘案した結果、本公開買付上限価格の変更を応諾することが望ましいと判断いたしました。そして、2026年1月7日、当社はトヨタ不動産に対して、本公開買付上限価格を実施予定の本公開買付けの条件変更に係る取締役会決議日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値に変更することを受諾する旨回答いたしました。その後、2026年1月14日、当社はトヨタ不動産から、豊田自動織機公開買付価格を18,800円として、2026年1月15日から豊田自動織機公開買付けを開始する旨の連絡を受けました。

以上の検討及び協議を踏まえ、当社は、2026年1月14日付の会社法第370条及び当社定款の規定に基づく取締役会の決議に代わる書面決議により、本公開買付価格を、本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値又は同日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値のいずれか低い方の価格に対して10%のディスカウントを行った金額（小数点以下四捨五入。但し、かかる金額が本公開買付けの実施予定に係る取締役会決議日の前営業日である2025年6月2日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値1,935円を上回る場合には1,935円）から、本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値又は同日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値のいずれか低い方の価格に対して10%のディスカウントを行った金額（小数点以下四捨五入。但し、かかる金額が実施予定の本公開買付けの条件変更に係る取締役会決議日の前営業日である2026年1月13日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値2,209円を上回る場合には2,209円）に変更することを決議し、同日その旨を公表いたしました。

その後、当社は、豊田自動織機買付者が2026年3月24日に公表した「株式会社豊田自動織機（証券コード：6201）の株券等に対する公開買付けの結果に関するお知らせ」によって、豊田自動織機公開買付けが2026年3月23日をもって終了し、2026年3月30日が豊田自動織機公開買付けの決済の開始日となることを確認いたしました。

これを踏まえ、当社は、本日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項及び当社定款の規定に基づき、本公開買付け実施に係る取締役会決議日の前営業日である2026年4月27日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値が1,884円（小数点以下四捨五入）、同日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値が1,923円（小数点以下四捨五入。以下、終値の単純平均値の計算において同じとします。）であったことから、より低い価格が2026年4月27日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値1,884円（小数点以下四捨五入）であることを確認した上で、自己株式の取得を行うこと、その具体的な取得方法として本公開買付けを行うこと、及び本公開買付価格を、2026年4月27日の東京証券取引所プ

ライム市場における当社普通株式の終値 1,884 円（小数点以下四捨五入）に対して 10%のディスカウントを行った価格となる 1,696 円（小数点以下四捨五入）が、本公開買付上限価格 2,209 円を下回るため 1,696 円とすること、加えて、本公開買付けにおける買付予定数については、自己資金の流出を最小限に抑える必要があることから、トヨタ不動産から提案を受けた応募対象株式と同数である 184,897,656 株（所有割合：6.87%）を買付予定数とし、買付予定数を超えた応募があり、あん分比例により単元調整した結果、買付予定数を上回る可能性があることから、買付予定数に 1 単元（100 株）を加算した 184,897,756 株（所有割合：6.87%）を上限とすることを決議いたしました。

また、本公開買付価格（1,696 円）においてかかる上限数（184,897,756 株）の買付け等を行う場合であっても、取得価額の総額（313,586,594,176 円）は、本日時点における当社の分配可能額の範囲内であることから、本公開買付けの決済が行えなくなる事態は生じないものと考えております。

なお、トヨタ不動産からは、本公開買付けに応募された株券等（以下「応募株券等」といいます。）の数が買付予定数を超え、あん分比例の方式により、豊田自動織機において想定以上の当社普通株式の残存が生じた場合には、当該残存する当社普通株式については、現状においてその具体的な手法は未定であるが、原則として速やかに売却することを豊田自動織機に対して要請する方針であるとの説明を受けております。

加えて、豊田自動織機買付者が 2026 年 1 月 15 日付で提出した公開買付届出書（以下「豊田自動織機買付者公開買付届出書」といいます。）によると、トヨタ不動産及び豊田自動織機との 2025 年 6 月 3 日付公開買付合意書（豊田自動織機買付者公開買付届出書によると、豊田自動織機買付者も 2025 年 6 月 20 日付で公開買付合意書の当事者となったとのことです。その後の変更を含み、以下「豊田自動織機公開買付合意書」といいます。）において、豊田自動織機公開買付けが成立し、その決済が完了することを前提として、当社が本公開買付けを開始した場合には、豊田自動織機は、その所有する当社普通株式の全部（157,705,656 株、所有割合：5.86%）及び退職給付信託の信託財産として三井住友信託銀行株式会社（再信託先：株式会社日本カストディ銀行）に信託している当社普通株式の全部（27,192,000 株、所有割合：1.01%）（合計 184,897,656 株、所有割合：6.87%）を本公開買付けに応募することを合意したとのことです。

なお、当社の取締役である豊田章男氏はトヨタ自動車及びトヨタ不動産の取締役会長を兼務しており、かつ、豊田自動織機買付者親会社の出資者であることから、本公開買付けの検討・決定に際しての当社の意思決定過程における恣意性を排除する観点から、本公開買付けに関する当社取締役会の審議及び決議には一切参加しておらず、かつ、当社の立場においてトヨタ不動産及び豊田自動織機との協議・交渉にも一切参加していません。

本公開買付けに要する資金については、その全額を自己資金により充当する予定です。この点、当社が本日公表した 2026 年 3 月期決算短信に記載の 2026 年 3 月 31 日現在における当社連結ベースの現金及び現金同等物は 1,189,126 百万円であることから、当社の今後の事業運営や財務健全性及び安全性に悪影響を与えることなく実現できるものと考えております。

## 2. 自己株式の取得に関する取締役会決議内容

### (1) 決議内容

株券等の種類	総数	取得価額の総額
普通株式	184,897,756 株	313,586,594,176 円

(注 1) 取得する株式の総数（184,897,756 株）の本日時点の発行済株式の総数（2,910,979,691 株）に占める割合は、6.35%であります（小数点以下第三位を四捨五入）。

(注 2) 取得する株式の総数は、本日開催の取締役会において決議された取得する株式の総数の上限株数です。なお、買付予定数を超えた応募があり、あん分比例により単元調整した結果、買付予定数を上回る可能性があるため、取締役会決議における総数は買付予定数に 1 単元（100 株）を加算しております。

(注 3) 取得価額の総額は、本日開催の取締役会において決議された株式の取得価額の総額の上限金額です。

(注 4) 取得することができる期間は、2026 年 4 月 30 日から 2026 年 7 月 31 日までです。

### (2) 当該決議に基づいて既に取得した自己の株式に係る上場株券等

該当事項はありません。

### 3. 買付け等の概要

#### (1) 日程等

① 取締役会決議日	2026年4月28日(火曜日)
② 公開買付開始公告日	2026年4月30日(木曜日) 電子公告を行い、その旨を日本経済新聞に掲載します。 電子公告アドレス ( <a href="https://disclosure2.edinet-fsa.go.jp/">https://disclosure2.edinet-fsa.go.jp/</a> )
③ 公開買付届出書提出日	2026年4月30日(木曜日)
④ 買付け等の期間	2026年4月30日(木曜日)から 2026年6月1日(月曜日)まで(20営業日)

#### (2) 買付け等の価格

普通株式1株につき、1,696円

#### (3) 買付け等の価格の算定根拠等

##### ① 算定の基礎

当社は、本公開買付価格の決定に際しては、基準の明確性及び客観性を重視する観点から、当社普通株式の市場価格を基礎とすること、本公開買付けに応募せず当社普通株式を所有し続ける株主の皆様の利益を尊重する観点から、資産の社外流出を可能な限り抑えるべく、市場価格に一定のディスカウントを行った価格とすることが望ましいと考えました。具体的なディスカウント率については、客観性・合理性のある水準とすべく、近時の一定数の類似案件におけるディスカウント率の設定状況を把握するため、2022年5月から2025年4月までに決済が完了した参考事例77件のうち、プレミアムを設定した事例又は株式価値算定書を用いて公開買付価格を決定した事例(合計11件)を除く事例66件(ディスカウント率5%以上10%未満が3件、ディスカウント率10%が52件、ディスカウント率11%以上が11件ありました。)において、ディスカウント率10%が最多であったことを参考に、ディスカウント率10%が一般的かつ合理的な水準と考え、本公開買付けにおけるディスカウント率を10%とすることが適切であると判断いたしました。また、本公開買付けの実施予定に係る取締役会決議日から本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議日まで約7ヶ月の期間が経過することが想定され、その間の株価の変動可能性を踏まえると、当社普通株式の市場株価が大幅に上昇することにより、不測の資産の社外流出が発生する可能性も考えられるため、当社は、本公開買付上限価格を設定することは当社にとって望ましいと判断いたしました。これらの検討を踏まえ、当社は、2025年5月8日、トヨタ不動産に対して、2025年4月10日及び2025年4月26日の提案のとおり、本公開買付けを行う旨を回答いたしました。

以上の検討及び協議を踏まえ、当社は、2025年6月3日付で、会社法第370条及び当社定款に基づく取締役会決議に代わる書面決議により、同法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項及び当社定款の規定に基づき、自己株式の取得を行う予定であること、その具体的な取得方法として本公開買付けを行う予定であること、及び本公開買付価格は本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議の日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値又は同日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値のいずれか低い方の価格に対して10%のディスカウントを行った金額(小数点以下四捨五入。但し、当該金額が本公開買付けの実施予定に係る取締役会決議日の前営業日である2025年6月2日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値1,935円を上回る場合には1,935円)とし、本公開買付けの開始を公表する日に改めて決定すること、加えて、本公開買付けにおける買付予定数については、自己資金の流出を最小限に抑える必要があることから、トヨタ不動産から提案を受けた応募対象株式と同数である184,897,656株(所有割合:6.87%)を買付予定数とし、買付予定数を超えた応募があり、あん分比例により単元調整した結果、買付予定数を上回る可能性があることから、買付予定数に1単元

(100株)を加算した184,897,756株(所有割合:6.87%)を上限とすることを決議し、同日その旨を公表いたしました。

その後、2025年12月18日に、当社はトヨタ不動産より、2025年6月3日以降、当社普通株式の市場株価が上昇しており、本公開買付上限価格(1,935円)との乖離が大きい状態になっていることを踏まえ、本公開買付上限価格を豊田自動織機公開買付けの開始を公表する日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値に変更することを検討いただきたいとの要請を受けました。これを受けて、2025年12月24日、当社はトヨタ不動産に対し、足元の当社普通株式の市場株価を踏まえると、本公開買付上限価格の変更による豊田自動織機の普通株式の非公開化成立への貢献は限定的と想定され、株主の皆様への合理的な説明が困難であるため、要請を応諾しかねる旨を回答いたしました。これに対して、2025年12月26日に、当社はトヨタ不動産より、豊田自動織機が所有する当社普通株式の売却にあたっては、時価を基準として可能な限り有利な方法により売却することが必要であると考えており、現時点において本公開買付上限価格(1,935円)で売却する意向は有していないため、本公開買付上限価格の変更を再度検討いただきたい旨の伝達を受けました。これを受けて、2026年1月6日、当社はトヨタ不動産に対し、当社普通株式を市場で売却する場合の売却期間やディスカウント率、みなし配当の益金不算入規定の適用等を踏まえると豊田自動織機にとっては本公開買付けが最も経済合理的な選択と考えられると伝えました。これに対して、同日に、当社はトヨタ不動産より、豊田自動織機との間で豊田自動織機公開買付価格の引き上げについて協議を行っている旨及び本公開買付上限価格を豊田自動織機公開買付けの開始を公表する日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値に変更することを改めて検討いただきたい旨の要請を受けました。これを受けて、本公開買付上限価格を変更することは2025年6月3日時点の想定よりも資産の社外流出が増加する可能性があるものの、①本公開買付上限価格を変更せずに、応募対象株式が、市場売却等の公開買付けによらない方法で売却された場合の当社普通株式の市場株価及び流動性への影響、②本公開買付けは足元の市場価格に対してディスカウントを行った価格で応募対象株式を自己株式として取得することができる機会であること、③応募対象株式を自己株式として取得することは、当社のEPSやROE等の資本効率の向上に寄与し、株主の皆様に対する利益還元につながると思われること、④豊田自動織機公開買付価格について合理的な引き上げが想定されること等を総合的に勘案した結果、本公開買付上限価格の変更を応諾することが望ましいと判断いたしました。そして、2026年1月7日、当社はトヨタ不動産に対して、本公開買付上限価格を実施予定の本公開買付けの条件変更に係る取締役会決議日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値に変更することを受諾する旨回答いたしました。その後、2026年1月14日、当社はトヨタ不動産から、豊田自動織機公開買付価格を18,800円として、2026年1月15日から豊田自動織機公開買付けを開始する旨の連絡を受けました。

以上の検討及び協議を踏まえ、当社は、2026年1月14日付の会社法第370条及び当社定款の規定に基づく取締役会の決議に代わる書面決議により、本公開買付価格を、本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値又は同日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値のいずれか低い方の価格に対して10%のディスカウントを行った金額(小数点以下四捨五入。但し、かかる金額が本公開買付けの実施予定に係る取締役会決議日の前営業日である2025年6月2日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値1,935円を上回る場合には1,935円)から、本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値又は同日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値のいずれか低い方の価格に対して10%のディスカウントを行った金額(小数点以下四捨五入。但し、かかる金額が実施予定の本公開買付けの条件変更に係る取締役会決議日の前営業日である2026年1月13日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値2,209円を上回る場合には2,209円)に変更することを決議し、同日その旨を公表いたしました。

その後、当社は、豊田自動織機買付者が2026年3月24日に公表した「株式会社豊田自動織機(証券コード:6201)の株券等に対する公開買付けの結果に関するお知らせ」によって、豊田自動織機公開買付けが2026年3月23日をもって終了し、2026年3月30日が豊田自動織機公開買付けの決済の開始日

となることを確認いたしました。

これを踏まえ、当社は、本日開催の取締役会において、会社法第 165 条第 3 項の規定により読み替えて適用される同法第 156 条第 1 項及び当社定款の規定に基づき、本公開買付け実施に係る取締役会決議日の前営業日である 2026 年 4 月 27 日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値が 1,884 円（小数点以下四捨五入）、同日までの過去 1 ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値が 1,923 円であったことから、より低い価格が 2026 年 4 月 27 日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値 1,884 円（小数点以下四捨五入）であることを確認した上で、自己株式の取得を行うこと、その具体的な取得方法として本公開買付けを行うこと、及び本公開買付け価格を、2026 年 4 月 27 日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値 1,884 円（小数点以下四捨五入）に対して 10%のディスカウントを行った価格となる 1,696 円（小数点以下四捨五入）が、本公開買付上限価格 2,209 円を下回るため 1,696 円とすること、加えて、本公開買付けにおける買付予定数については、自己資金の流出を最小限に抑える必要があることから、トヨタ不動産から提案を受けた応募対象株式と同数である 184,897,656 株（所有割合：6.87%）を買付予定数とし、買付予定数を超えた応募があり、あん分比例により単元調整した結果、買付予定数を上回る可能性があることから、買付予定数に 1 単元（100 株）を加算した 184,897,756 株（所有割合：6.87%）を上限とすることを決議いたしました。

なお、本公開買付け価格である 1,696 円は、本公開買付けの実施を決議した取締役会決議日の前営業日である 2026 年 4 月 27 日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値 1,884 円（小数点以下四捨五入）に対して 9.98%（小数点以下第三位を四捨五入。以下、本項におけるディスカウント率の計算において同じとします。）ディスカウントした金額、過去 1 ヶ月間の当社普通株式の終値の単純平均値 1,923 円に対して 11.80%ディスカウントした金額、過去 3 ヶ月間の当社普通株式の終値の単純平均値 2,034 円に対して 16.62%ディスカウントした金額、過去 6 ヶ月間の当社普通株式の終値の単純平均値 2,081 円に対して 18.50%ディスカウントした金額となります。

## ② 算定の経緯

当社は、本公開買付け価格の決定に際しては、基準の明確性及び客観性を重視する観点から、当社普通株式の市場価格を基礎とすること、本公開買付けに応募せず当社普通株式を所有し続ける株主の皆様の利益を尊重する観点から、資産の社外流出を可能な限り抑えるべく、市場価格に一定のディスカウントを行った価格とすることが望ましいと考えました。具体的なディスカウント率については、客観性・合理性のある水準とすべく、近時の一定数の類似案件におけるディスカウント率の設定状況を把握するため、2022 年 5 月から 2025 年 4 月までに決済が完了した参考事例 77 件のうち、プレミアムを設定した事例又は株式価値算定書を用いて公開買付け価格を決定した事例（合計 11 件）を除く事例 66 件（ディスカウント率 5%以上 10%未満が 3 件、ディスカウント率 10%が 52 件、ディスカウント率 11%以上が 11 件ありました。）において、ディスカウント率 10%が最多であったことを参考に、ディスカウント率 10%が一般的かつ合理的な水準と考え、本公開買付けにおけるディスカウント率を 10%とすることが適切であると判断いたしました。また、本公開買付けの実施予定に係る取締役会決議日から本公開買付け価格を最終的に決定する取締役会決議日まで約 7 ヶ月の期間が経過することが想定され、その間の株価の変動可能性を踏まえると、当社普通株式の市場株価が大幅に上昇することにより、不測の資産の社外流出が発生する可能性も考えられるため、当社は、本公開買付上限価格を設定することは当社にとって望ましいと判断いたしました。これらの検討を踏まえ、当社は、2025 年 5 月 8 日、トヨタ不動産に対して、2025 年 4 月 10 日及び 2025 年 4 月 26 日の提案のとおり、本公開買付けを行う旨を回答いたしました。

以上の検討及び協議を踏まえ、当社は、2025 年 6 月 3 日付で、会社法第 370 条及び当社定款に基づく取締役会決議に代わる書面決議により、同法第 165 条第 3 項の規定により読み替えて適用される同法第 156 条第 1 項及び当社定款の規定に基づき、自己株式の取得を行う予定であること、その具体的な取得方法として本公開買付けを行う予定であること、及び本公開買付け価格は本公開買付け価格を最終的に決定する取締役会決議の日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値又は同

日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値のいずれか低い方の価格に対して10%のディスカウントを行った金額（小数点以下四捨五入。但し、当該金額が本公開買付けの実施予定に係る取締役会決議日の前営業日である2025年6月2日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値1,935円を上回る場合には1,935円）とし、本公開買付けの開始を公表する日に改めて決定すること、加えて、本公開買付けにおける買付予定数については、自己資金の流出を最小限に抑える必要があることから、トヨタ不動産から提案を受けた応募対象株式と同数である184,897,656株（所有割合：6.87%）を買付予定数とし、買付予定数を超えた応募があり、あん分比例により単元調整した結果、買付予定数を上回る可能性があることから、買付予定数に1単元（100株）を加算した184,897,756株（所有割合：6.87%）を上限とすることを決議し、同日その旨を公表いたしました。

その後、2025年12月18日に、当社はトヨタ不動産より、2025年6月3日以降、当社普通株式の市場株価が上昇しており、本公開買付上限価格（1,935円）との乖離が大きい状態になっていることを踏まえ、本公開買付上限価格を豊田自動織機公開買付けの開始を公表する日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値に変更することを検討いただきたいとの要請を受けました。これを受けて、2025年12月24日、当社はトヨタ不動産に対し、足元の当社普通株式の市場株価を踏まえると、本公開買付上限価格の変更による豊田自動織機の普通株式の非公開化成立への貢献は限定的と想定され、株主の皆様への合理的な説明が困難であるため、要請を応諾しかねる旨を回答いたしました。これに対して、2025年12月26日に、当社はトヨタ不動産より、豊田自動織機が所有する当社普通株式の売却にあたっては、時価を基準として可能な限り有利な方法により売却することが必要であると考えており、現時点において本公開買付上限価格（1,935円）で売却する意向は有していないため、本公開買付上限価格の変更を再度検討いただきたい旨の伝達を受けました。これを受けて、2026年1月6日、当社はトヨタ不動産に対し、当社普通株式を市場で売却する場合の売却期間やディスカウント率、みなし配当の益金不算入規定の適用等を踏まえると豊田自動織機にとっては本公開買付けが最も経済合理的な選択と考えられると伝えました。これに対して、同日に、当社はトヨタ不動産より、豊田自動織機との間で豊田自動織機公開買付価格の引き上げについて協議を行っている旨及び本公開買付上限価格を豊田自動織機公開買付けの開始を公表する日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値に変更することを改めて検討いただきたい旨の要請を受けました。これを受けて、本公開買付上限価格を変更することは2025年6月3日時点の想定よりも資産の社外流出が増加する可能性があるものの、①本公開買付上限価格を変更せずに、応募対象株式が、市場売却等の公開買付けによらない方法で売却された場合の当社普通株式の市場株価及び流動性への影響、②本公開買付けは足元の市場価格に対してディスカウントを行った価格で応募対象株式を自己株式として取得することができる機会であること、③応募対象株式を自己株式として取得することは、当社のEPSやROE等の資本効率の向上に寄与し、株主の皆様に対する利益還元につながると思われること、④豊田自動織機公開買付価格について合理的な引き上げが想定されること等を総合的に勘案した結果、本公開買付上限価格の変更を応諾することが望ましいと判断いたしました。そして、2026年1月7日、当社はトヨタ不動産に対して、本公開買付上限価格を実施予定の本公開買付けの条件変更に係る取締役会決議日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値に変更することを受諾する旨回答いたしました。その後、2026年1月14日、当社はトヨタ不動産から、豊田自動織機公開買付価格を18,800円として、2026年1月15日から豊田自動織機公開買付けを開始する旨の連絡を受けました。

以上の検討及び協議を踏まえ、当社は、2026年1月14日付の会社法第370条及び当社定款の規定に基づく取締役会の決議に代わる書面決議により、本公開買付価格を、本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値又は同日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値のいずれか低い方の価格に対して10%のディスカウントを行った金額（小数点以下四捨五入。但し、かかる金額が本公開買付けの実施予定に係る取締役会決議日の前営業日である2025年6月2日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値1,935円を上回る場合には1,935円）から、本公開買付価格を最終的に決定する取締役会決議日の前営業日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終

値又は同日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値のいずれか低い方の価格に対して10%のディスカウントを行った金額（小数点以下四捨五入。但し、かかる金額が実施予定の本公開買付けの条件変更に係る取締役会決議日の前営業日である2026年1月13日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値2,209円を上回る場合には2,209円）に変更することを決議し、同日その旨を公表いたしました。

その後、当社は、豊田自動織機買付者が2026年3月24日に公表した「株式会社豊田自動織機（証券コード：6201）の株券等に対する公開買付けの結果に関するお知らせ」によって、豊田自動織機公開買付けが2026年3月23日をもって終了し、2026年3月30日が豊田自動織機公開買付けの決済の開始日となることを確認いたしました。

これを踏まえ、当社は、本日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項及び当社定款の規定に基づき、本公開買付け実施に係る取締役会決議日の前営業日である2026年4月27日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値が1,884円（小数点以下四捨五入）、同日までの過去1ヶ月間の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値の単純平均値が1,923円であったことから、より低い価格が2026年4月27日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値1,884円（小数点以下四捨五入）であることを確認した上で、自己株式の取得を行うこと、その具体的な取得方法として本公開買付けを行うこと、及び本公開買付け価格を、2026年4月27日の東京証券取引所プライム市場における当社普通株式の終値1,884円（小数点以下四捨五入）に対して10%のディスカウントを行った価格となる1,696円（小数点以下四捨五入）が、本公開買付上限価格2,209円を下回るため1,696円とすること、加えて、本公開買付けにおける買付予定数については、自己資金の流出を最小限に抑える必要があることから、トヨタ不動産から提案を受けた応募対象株式と同数である184,897,656株（所有割合：6.87%）を買付予定数とし、買付予定数を超えた応募があり、あん分比例により単元調整した結果、買付予定数を上回る可能性があることから、買付予定数に1単元（100株）を加算した184,897,756株（所有割合：6.87%）を上限とすることを決議いたしました。

#### (4) 買付予定の株券等の数

株券等の種類	買付予定数	超過予定数	計
普通株式	184,897,656株	—株	184,897,656株

(注1) 応募株券等の総数が買付予定数（184,897,656株）を超えない場合は、応募株券等の全部の買付けを行います。応募株券等の総数が買付予定数（184,897,656株）を超える場合は、その超える部分の全部又は一部の買付けは行わないものとし、金融商品取引法（昭和23年法律第25号。その後の改正を含みます。以下「法」といいます。）第27条の22の2第2項において準用する法第27条の13第5項及び発行者による上場株券等の公開買付けの開示に関する内閣府令（平成6年大蔵省令第95号。その後の改正を含みます。）第21条に規定するあん分比例の方式により、株券等の買付けに係る受渡しその他の決済を行います。

(注2) 単元未満株式についても、本公開買付けの対象としております。なお、会社法に従って株主による単元未満株式買取請求権が行使された場合には、当社は法令の手に従い、本公開買付けにおける買付け等の期間（以下「公開買付け期間」といいます。）中に自己の株式を買い取る場合があります。

#### (5) 買付け等に要する資金

313,603,624,576円

(注) 買付予定数（184,897,656株）を全て買付けた場合の買付代金（313,586,424,576円）に、買付手数料及びその他費用（本公開買付けに関する公告及び公開買付説明書その他必要書類の印刷費その他諸費用）の見積額を合計したものです。

#### (6) 決済の方法

- ① 買付け等の決済をする金融商品取引業者・銀行等の名称及び本店の所在地  
野村證券株式会社 東京都中央区日本橋一丁目13番1号

② 決済の開始日

2026年6月23日（火曜日）

③ 決済の方法

公開買付期間終了後遅滞なく、公開買付けによる買付け等の通知書を本公開買付けに係る株券等の買付け等の申込みに対する承諾又は売付け等の申込みをする方（以下「応募株主等」といいます。）（外国の居住者であり、公開買付代理人にお取引可能な口座をお持ちでない株主等（法人株主等を含みます。以下「外国人株主等」といいます。）の場合は常任代理人）の住所宛に郵送します。

買付けは、金銭にて行います。応募株主等は公開買付けによる売却代金より適用ある源泉徴収税額（注）を差し引いた金額を送金等の応募株主等が指示した方法により、決済の開始日以後遅滞なく受け取ることができます（送金手数料がかかる場合があります。）。

（注）公開買付けにより買付けられた株式に対する課税関係について

※税務上の具体的なご質問等は税理士等の専門家にご相談いただき、ご自身でご判断いただきますようお願い申し上げます。

(i). 個人株主が本公開買付けに応募した場合の税務上の取扱いは次のとおりです。

(イ) 応募株主等が居住者及び国内に恒久的施設を有する非居住者の場合

本公開買付けに応募して交付を受ける金銭の額が、当社の資本金等の額のうちその交付の基因となった株式に対応する部分の金額を超過するとき（1株当たりの買付価格が当社の1株当たりの資本金等の額を上回る場合）は、当該超過部分の金額については、配当とみなして課税されます。また、本公開買付けに応募して交付を受ける金銭の額から、配当とみなされる金額を除いた部分の金額については株式等の譲渡収入となります。なお、配当とみなされる金額がない場合（1株当たりの買付価格が当社の1株当たりの資本金等の額以下の場合）には交付を受ける金銭の額のすべてが譲渡収入となります。

配当とみなされる金額については、20.315%（所得税及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号。その後の改正を含みます。）に基づく復興特別所得税（以下「復興特別所得税」といいます。）15.315%、住民税5%）の額が源泉徴収されます（国内に恒久的施設を有する非居住者にあつては、住民税5%は特別徴収されません。）。但し、租税特別措置法施行令（昭和32年政令第43号。その後の改正を含みます。）第4条の6の2第38項に規定する大口株主等（以下「大口株主等」といいます。）に該当する場合には、20.42%（所得税及び復興特別所得税のみ）の額が源泉徴収されます。また、配当とみなされる金額の支払いを受ける応募株主等と、その応募株主等を判定の基礎となる株主とした場合に法人税法上の同族会社に該当する法人の保有割合とを合算し、その発行済株式等の総数に占める割合が100分の3以上となるときは、かかる配当とみなされる金額は、総合課税の対象となります。

譲渡収入から当該株式に係る取得費を控除した金額については、原則として、申告分離課税の適用対象となります。

なお、租税特別措置法（昭和32年法律第26号。その後の改正を含みます。）第37条の14（非課税口座内の少額上場株式等に係る譲渡所得等の非課税）に規定する非課税口座（以下「非課税口座」といいます。）の株式等について本公開買付けに応募する場合、当該非課税口座が開設されている金融商品取引業者等が野村証券株式会社であるときは、本公開買付けによる譲渡所得等については、原則として、非課税とされます。なお、当該非課税口座が野村証券株式会社以外の金融商品取引業者等において開設されている場合には、上記の取扱いと異なる場合があります。

(ロ) 応募株主等が国内に恒久的施設を有しない非居住者の場合

配当とみなされる金額について、15.315%（所得税及び復興特別所得税のみ）の額が源

泉徴収されます。なお、大口株主等に該当する場合には、20.42%（所得税及び復興特別所得税のみ）の額が源泉徴収されます。また、当該譲渡により生じる所得については、原則として、課税されません。

(ii). 法人株主が本公開買付けに応募して交付を受ける金銭の額が、当社の資本金等の額のうちその交付の基因となった株式に対応する部分の金額を超過するときは、当該超過部分の金額については、配当とみなされます。配当とみなされた部分について、原則として 15.315%（所得税及び復興特別所得税のみ）の額が源泉徴収されます。

なお、その配当等の支払いに係る基準日において、当社の発行済株式等の総数の3分の1超を直接に保有する応募株主等（国内に本店又は主たる事務所を有する法人（内国法人）に限ります。）が、当社から支払いを受ける配当とみなされる金額については、所得税及び復興特別所得税が課されないものとされ、源泉徴収は行われなないこととなります。

なお、外国人株主等のうち、適用ある租税条約に基づき、かかるみなし配当金額に対する所得税の軽減又は免除を受けることを希望する株主は、応募の際に、公開買付応募申込書と共に租税条約に関する届出書を公開買付代理人にご提出ください。

#### (7) その他

- ① 本公開買付けは、直接間接を問わず、米国内においてもしくは米国に向けて行われるものではなく、また、米国の郵便その他の州際通商もしくは国際通商の方法・手段（電話、テレックス、ファクシミリ、電子メール、インターネット通信を含みますが、これらに限りません。）を使用して行われるものではなく、更に米国内の証券取引所施設を通じて行われるものでもありません。上記方法・手段により、もしくは上記施設を通じて、又は米国内から本公開買付けに応募することはできません。また、公開買付届出書又は関連する買付書類は米国内においてもしくは米国に向けて、又は米国内から、郵送その他の方法によって送付又は配布されるものではなく、かかる送付又は配布を行うことはできません。上記制限に直接又は間接に違反する本公開買付けへの応募はお受けしません。本公開買付けの応募に際し、応募株主等（外国人株主等の場合は常任代理人）は公開買付代理人に対し、以下の旨の表明及び保証を行うことを求められることがあります。応募株主等が応募の時点及び公開買付応募申込書送付の時点のいずれにおいても、米国に所在していないこと。本公開買付けに関するいかなる情報（その写しを含みます。）も、直接間接を問わず、米国内においてもしくは米国に向けて、又は米国内から、これを受領したり送付したりしていないこと。買付けもしくは公開買付応募申込書の署名交付に関して、直接間接を問わず、米国の郵便その他の州際通商もしくは国際通商の方法・手段（電話、テレックス、ファクシミリ、電子メール、インターネット通信を含みますが、これらに限りません。）又は米国内の証券取引所施設を使用していないこと。他の者の裁量権のない代理人又は受託者・受任者として行動する者ではないこと（当該他の者が買付けに関するすべての指示を米国外から与えている場合を除きます。）。
- ② 豊田自動織機買付者公開買付届出書によると、豊田自動織機公開買付合意書において、豊田自動織機公開買付けが成立し、その決済が完了することを前提として、当社が本公開買付けを開始した場合には、豊田自動織機は、その所有する当社普通株式の全部（157,705,656株、所有割合：5.86%）及び退職給付信託の信託財産として三井住友信託銀行株式会社（再信託先：株式会社日本カストディ銀行）に信託している当社普通株式の全部（27,192,000株、所有割合：1.01%）（合計184,897,656株、所有割合：6.87%）を本公開買付けに応募することを合意したとのことです。詳細につきましては、豊田自動織機買付者公開買付届出書の内容をご参照ください。
- ③ 当社は、2026年3月31日付で「中期経営計画「CORE 2030」の策定に関するお知らせ」を公表しております。詳細につきましては、当該公表の内容をご参照ください。
- ④ 当社は、本日付で2026年3月期決算短信を公表しております。当該公表内容につきましては、法第193条の2第1項の規定に基づく監査法人の監査を受けておりません。詳細につきましては、当該公

表の内容をご参照ください。

- ⑤ 当社は、本日付で「剰余金の配当に関するお知らせ」を公表しております。詳細につきましては、当該公表の内容をご参照ください。

(ご参考) 2026年3月31日現在の自己株式の所有状況

発行済株式総数（自己株式を除く）	2,692,045,404株
自己株式数	218,934,287株

以 上